

# すまいるん

済生会熊本福祉センター通信

**理念** 一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします。

**基本方針** ・利用者主体の福祉を実践します。  
・ライフステージに応じた自立を支援します。  
・地域社会とつながり共に生きる未来をめざします。

就労継続支援A型・B型  
済生会かがやき  
就労継続支援B型・生活介護  
済生会ほほえみ  
就労継続支援A型・B型  
済生会ウイズ  
共同生活援助  
済生会グループホーム事業所

児童発達支援センター  
済生会なでしこ園  
幼保連携型 認定こども園  
済生会しらふじ子ども園  
相談支援  
済生会熊本福祉相談支援センター  
熊本県地域生活定着支援センター

## 各事業所における今後の展望・抱負

### 済生会かがやき



管理者 宮川 栄助

かがやき事業所の最大の特徴は、超急性期病院の中で業務を行っていることです。職員数2,200名、外来患者数500名、入院患者数400名、そしてお見舞い、ご家族、取引業者などを入ると毎日延べ3,000名が行き交う場所で仕事をしていることとなります。

「病院≒地域」と捉えるならば就労継続支援事業としては最も地域に溶け込んだ仕事をしていると言えるでしょう。仕事は、カフェ（パン・弁当販売等）と清掃（病院内外）という病院では欠かせない業務で、その意味においても利用者、指導員、支援員は、誇りを持って仕事に就いています。

今後の展望としては、前述した毎日利用されている方々に「品質の良い成果物」をお届けすること、そして利用者の満足度向上と更なる工賃アップを目指すことです。超急性期病院のなかで40名近くの利用者が働いている病院は全国でも稀であるため、働く場所を提供くださっている病院に感謝しつつ、他企業の障がい者雇用の手本となれるよう精進して参ります。



副管理者 中村 敏就

済生会かがやきでは支援方針として、「就労を通じて生きがいを持つ支援、人生に寄り添い自立を支援、地域共生を図るため病院及び企業と連携」を掲げており、具体的には、就労体験や見学会などを行い、支援学校やご家族との交流の場を増やし、より理解していただく場をつくります。

また、福祉サービスの事業費の取支が利用者増により改善が見込まれるため、利用者満足度や利用率向上に向けた活動をさらに充実させていきます。

カフェ事業では取引先企業との連携や開拓を行い、新たな商品の展開や売上高向上を図り、クリーン事業では清掃請負業務見直しについて済生会熊本病院と連携し、新清掃区域や更改した契約金額でスタートしております。



### 済生会ほほえみ



管理者 小西 忠光

済生会ほほえみは、障がいのある方々の自立と社会参加を促進することを目指し、今後も利用者一人ひとりの特性とニーズに合わせた支援の充実を図っていく方針です。

利用者の強みに焦点を当てた支援を行い、個性に基づいたサービスを提供することを大切にしていきます。

職員の専門性の向上や家族・地域社会との連携を強化しながら、利用者が安心して生活できる環境を整えていくことを目指していきます。

未来に向けて、「地域との連携強化」や「職員の専門性向上」を続けながら、多彩なサービスを提供していくことを抱負としています。

### 済生会グループホーム事業所



管理者 入江 宏

熊本市内におけるグループホーム事業所の供給数は、同市の計画より2割ほど多く、日中支援型グループホームの拡充や入所支援施設のグループホームへの地域移行推進もあり、住居系の事業所間で競争が激化している状況にあります。

社会資源として存在し続けるためには、選ばれる事業所として生き残る他はなく、近見拠点のグループホームを計画通りに竣工させるとともに、支援の在り方についても意思決定を核としたものに見直し、加えてサービスの質も向上させなければなりません。事業所におけるKAIZEN活動を軸にして対応し、これらの評価については第三者評価機構の受審の他、次年より設置が義務付けられる“地域連携推進会議”でも一足先に行つて実績を積み、信頼を得ることで地域における責務を果たしたいと考えています。

### 済生会ウイズ



管理者 河野 明彦

済生会ウイズがパワーアップしました。食品加工棟の竣工に続き、クリーニング工場の全面改修も終わり、利用者、作業指導員、支援員一同、新たな環境で業務に励んでいます。

食品部門では、地域社会との繋がりも生まれ、近隣の食品関連工場など複数の企業から業務委託を受け、仕事の幅も広がっています。

クリーニング部門では、設備の更新で生産能力がアップ、さらにバーコードシステムを導入するなど、顧客満足度の向上を図りつつ、新規顧客の獲得にも積極的に取り組んでいます。

済生会ウイズでは今後も、利用者の方々が働く喜びを実感し、生き生きと生活できるよう、また、一般就労に必要な知識と能力向上のため、必要な支援を行っていきます。



副管理者 水元 一輝

済生会ウイズは2023年7月の食品加工棟の着工から2025年3月のクリーニング工場竣工まで、約1年半の期間で大きく変わりました。この実現には、多くの方々の支えがあって達成できたと振り返っており、この場をお借りして深く感謝いたします。

この新しい環境で、より魅力ある就労事業にしていいため、3つの抱負を後述します。

- ①食品事業では、地域企業との連携を強化し、魅力的かつ特性に合った作業を選択出来るよう、様々な作業に挑戦します。
- ②クリーニング事業は、最新機器の導入により、生産能力が拡大したため、更なる質の向上と事業拡大に挑戦します。
- ③多くの方に済生会ウイズを選んでいただけるよう、職場体験会や見学会等、積極的に受け入れます。

### 済生会なでしこ園



園長 五瀬 浩

済生会なでしこ園は児童発達支援センターとして、熊本市における障がい児支援体制の中核を担う施設です。

児童発達支援センターの中核機能として求められる「地域のインクルージョンの推進」では、これまで積み上げた地域との連携やつながりを強化するために、地域の民生委員・児童委員の方々とともに「防災おさんぽ」を実施します。

子どもたちが地域に出る機会、また、地域の皆様に「なでしこ園のこどもたち」を知ってもらう機会となるこの取組を通し、発達にサポートが必要な子どもや家族を支えるまちづくりに貢献していきます。

今年度も児童発達支援センターとして、子ども施策の理念・障がい児支援の理念を大切に、子どもたちやご家族のウェルビーイングの向上を目指し、職員一同力を合わせて運営して参ります。

### しらふじ子ども園



園長 森本 成一

しらふじ子ども園の喫緊の課題は、保育教諭・看護師等の人材の確保です。少子化が進み年間の出生数が70万人を切り、小学生のなりたい職業の上位に占めていた保育士が10位圏内から外れてしまい、新しい保育関係者の人材の確保が本当に困難になっています。

数少ない人材を補給しつつ、今の人材の活動の場を拡充して、永く活躍してもらうことが重要である。

園児確保においては、現人数を確保するためには、支援の必要な園児の割合が、今よりも増加することは、明らかである。支援に対する取り組み方・なでしこ園との共働による、新たな事業展開を模索して、しらふじ子ども園とそこに集う子どもたちの素晴らしい未来を描きたいです。



### 済生会熊本福祉相談支援センター



センター長 小西 忠光

済生会熊本福祉相談支援センターの目指す展望として、利用者が「自ら選んだその人らしい」暮らしを実現できるよう支援することを挙げています。また、利用者の持つ力や強みを活かしながら、地域社会へ「繋げる・広げる」役割を果たすことも重要な目標です。地域生活への移行や社会参加の促進に焦点を当て、相談員が面接や訪問、同行支援を通じて利用者をサポートしています。

さらに、地域の障がい者やその家族に寄り添う活動を行い、個々の暮らしを支えることを目指していきます。

また、人と人を繋ぐ「橋渡し」として、地域社会との連携を強化し、多様性を尊重する地域共生社会の構築を目指していきます。

### 熊本県地域生活定着支援センター



センター長 瀬崎 倫之介

熊本県地域生活定着支援センターの展望は、人々がより安心して地域生活を送れる環境を整備することです。特に、矯正施設を退所した高齢者や障がい者が社会復帰できるよう、福祉サービスを含む包括的な支援を提供することを目指しています。

今後の抱負としては、再犯防止という社会防衛を超えて、「社会的に豊かな生活」を支援するという視点をさらに深めたいという方針を掲げています。

また、関係機関との連携を強化し、公平かつ中立的なケアマネジメントを行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援を進めていきます。

済生会かがやき

朝のストレッチで  
心も体もクリーンに!

済生会かがやきのクリーンteamでは今年度より、朝礼時にストレッチをはじめました。このストレッチはクリーンteamの永野リーダーが何気なくおこなったのがきっかけです。なかなか心地良くして利用者の方や職員にも好評です!!また、腹式呼吸とセットで行うと体余計な力が入らず、リラックス効果もあるようです。一日作業をおこなっているとかなりの運動量にはなりますが、いつも同じ動きになってしまいうため、日頃使わない筋力の維持にも役立っています。『継続は力なり』...毎日、続けることでいろんな効果が期待できそうです。

みなさんもストレッチ、いかがでしょうか!

Report/ 齊藤 さなえ



どこまで  
のびせるかな?



済生会ほほえみ

リレー・フォー・ライフ

●日時:5月10日(土) ●場所:熊本市白川公園



みんなで  
頑張りました!

5月10日(土)熊本市白川公園で開催されたイベント「リレー・フォー・ライフ」にパン工房ふわりも出店しパンや焼き菓子の販売を行いました。リレー・フォー・ライフとは、がん患者さんやご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、がん征圧を目指し、1年を通じて取り組むチャリティー活動のことです。その年間イベントの集大成としてリレーイベントが行われました。利用者さんと一緒にイベントに参加し「あれ美味しそうだね」「あそこのブース、あとで行ってみようよ!」などと出店ブースを覗きながら公園内を周回しました。利用者さんも他の参加者の方々とコミュニケーションを取りながら参加されており、普段関わることのない方と関わりを持つよい機会となりました。自分たちが作っているパンも多くの方々に購入していただき利用者さんも大満足な一日となりました。

Report/ 福本 菜々香



済生会ウイズ

クリーニング工場オープンセレモニー

●日時:4月11日(金) ●場所:クリーニング工場

4月11日(金)済生会ウイズではクリーニング工場のオープンセレモニーを開催しました。副島支部長、吉住部長代行はじめ今回の改修工事に関わっていただきました沢山の関係者の皆様をご招待しての開催となりました。今回の改修工事では「寝具工場」「ユニホーム工場」をそれぞれに設け、以前の約1.8倍の洗濯物の処理が可能になりました。利用者の方、職員一丸となって頑張っていきたいと思っております。併せて、今回の改修工事で沢山の方からクラウドファンディングのご支援を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

Report/ 満永 祐介



済生会グループホーム

ホットプレートで  
焼き焼きパーティー

ゴールデンウィークの余暇をグループホームで楽しく過ごしていただく為、支援員がホームパーティーを計画し、調理実習を兼ねたたこ焼き機で、たこ焼きとベビーカステラを作って食べました。プレートからはジュウジュウいう音と共に、いい匂いが部屋いっぱいに広がり、利用者の皆さんから「いい匂い、美味しそう」という歓声が。熱々のたこ焼きと好みの具を入れたベビーカステラに大満足の皆さんでした。

Report/ 白石 奈美栄



おいしそ~!



済生会なでしこ園

防災おさんぽ、  
はじまりました

今年度よりなでしこ園では、安全計画の一つとして防災おさんぽをスタートしました。地震や大雨...いつどのような災害が起こるかかわからず、家庭にいても、場合によっては療養時間中に避難が迫られる状況があるかもしれません。そこで、地域の公民館や本園2階の相談室など、普段行き慣れない場所で過ごす経験を重ねています。避難するときには何を携うのかな?お手伝いをしてくれる人は誰だろう?地区の民生委員の方にも防災おさんぽに参加していただくことが、地域全体で子どもたちを支える体制につながりますね。同時に『防災リュック』を作成しました。リュックの中にはご家庭に準備して頂いたお菓子や水、タオル、着替え...ちょっと重たくて大きなリュックですが、大切なものがたくさん!子どもたちにとっても“自分の身を守る行動”の経験を重ねることができるよう取り組んでいきます。

Report/ 山口 優美

いざという時のために  
備えが重要!!



粗画

粗画

済生会  
しらふじ子ども園

こいのぼり見学

●日時:5月2日(金) ●場所:高橋稲荷神社近く  
5月2日(金)に年中児・年長児で高橋稲荷神社の近くにあるこいのぼりを見に行きました。前日から楽しみにしていた子どもたちで、当日バスに乗る際もドキドキ・ワクワクしている様子が見られました。お友だちと一緒に手を繋ぎ、こいのぼりが見えると、「〇〇色があった~!」「なんかかかいてあるよ!」と様々なこいのぼりの種類に嬉しそうにしていましたよ!地域の方もいらっしやっただので、元気よく挨拶をしていた子どもたちです。こいのぼりのように子どもたちも元気に育ちますように!

Report/ 高島 唯



こいのぼりに  
みんな夢中!!



熊本県地域生活  
定着支援センター

社会を  
明るくする運動

2025年6月から刑法が変わり、懲役刑と禁錮刑が「拘禁刑」に一本化されました。懲らしめから、立ち直り支援へと大きな方針転換が図られています。また、7月は「社会を明るくする運動」強調月間です。この運動では、立ち直りに寄り添うことで犯罪や非行のない社会を目指しています。地域生活定着支援センターでも、刑務所を出所された方が再び犯罪をすることなく生活していけるよう、それぞれの想いに寄り添った支援を提供していきたいと思っております。

Report/ 西村 悠香



編集  
後記

広報委員会 草部

暑中お見舞い申し上げます。厳しい暑さの毎日ですが皆様お変わりなく過ごしていらっしゃいますか。新年度が始まり、職員の異動などもあり、各事業所新たな気持ちでスタートを迎えています。「すまいるん」も今号より広報委員新メンバーでの発行となりました。未経験者も多く戸惑いもありましたが、力を合わせ作り上げました。1年間、皆様を楽しみにして頂ける「すまいるん」を目指し頑張っていますのでよろしくお願いたします。77号、お読みいただきありがとうございます。

発行所 / 済生会熊本福祉センター  
発行責任者 / 宮川 栄助  
編集 / 広報委員会  
(委員長 五瀬 浩) <https://www.sk-fukushi.jp/>  
熊本市南区内田町3560-1 TEL.096-223-3330 FAX.096-223-3429

